

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-312421
 (43)Date of publication of application : 22.11.1993

(51)Int.Cl.

F25B 5/04

(21)Application number : 04-122175
 (22)Date of filing : 14.05.1992

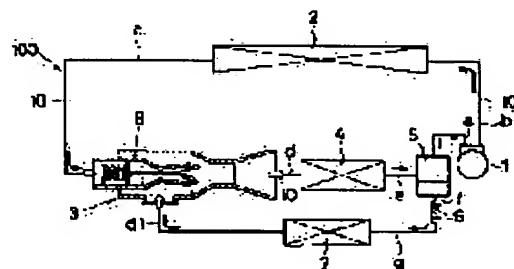
(71)Applicant : NIPPONDENSO CO LTD
 (72)Inventor : TAKEUCHI HIROTSGU

(54) FREEZER DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a freezer device in which a freezing capability at the time of high-speed operation is increased or a surplus freezing capability is made suitable during a high-speed operation by enabling an adjustment of flow rate of refrigerant passing through an ejector, a power required for driving a compressor is reduced and fuel cost can be reduced.

CONSTITUTION: In a freezer device in which the second evaporator 7 connected at its one end to a gas-liquid separator 5 and at the other end to a suction side of an ejector 3 is installed in a freezing cycle in which a refrigerant compressor 1, a refrigerant condenser 2, the ejector 3, the first evaporator 4 and the gas-liquid separator 5 are connected by the refrigerant flow passage, there is provided a refrigerant flow rate adjusting means 8 for adjusting a refrigerant flow rate passing through a nozzle of the ejector 3 in response to an operating condition of the freezer device.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 10.05.1999
 [Date of sending the examiner's decision of rejection] 16.07.2002
 [Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
 [Date of final disposal for application]
 [Patent number]
 [Date of registration]
 [Number of appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-312421

(43)公開日 平成5年(1993)11月22日

(51) Int.Cl.⁵

識別記号 庁内整理番号
A 8919-31

11

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 6 頁)

(21)出願番号 特願平4-122175

(22)出願日 平成4年(1992)5月14日

(71)出願人 000004260

日本電装株式会社

愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地

(72)発明者 武内 裕嗣

愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地 日本電
装株式会社内

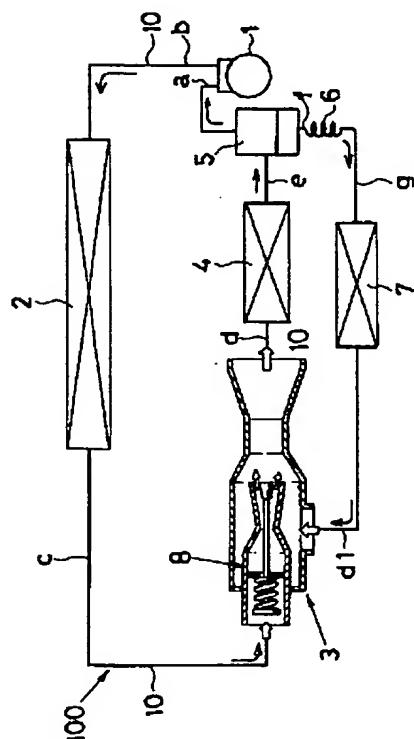
(74)代理人 弁理士 石黒 健二

(54)【発明の名称】 冷凍装置

(57) 【要約】

【目的】 エジェクタを通過する冷媒流量を調整可能とすることにより高速運転時の冷凍能力を増大させるか、または、高速運転時に余裕のある冷凍能力を適性化し、圧縮機の駆動に必要な動力を低減させて燃費を向上できる冷凍装置の提供。

【構成】 冷媒圧縮機1、冷媒凝縮器2、エジェクタ3、第1蒸発器4および気液分離器5を冷媒流路で連結してなる冷凍サイクルに、一端が前記気液分離器5に連結され、他端が前記エジェクタ3の吸引部に連結された第2蒸発器7を付設してなる冷凍装置において、冷凍装置の運転条件に応じて前記エジェクタ3のノズルを通過する冷媒流量を調整する冷媒流量調整手段8を設けた。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 冷媒圧縮機、冷媒凝縮器、エジェクタ、第1蒸発器および気液分離器を冷媒流路で連結してなる冷凍サイクルに、一端が前記気液分離器に連結され、他端が前記エジェクタの吸引部に連結された第2蒸発器を付設してなる冷凍装置において、
冷凍装置の運転条件に応じて前記エジェクタのノズルを通過する冷媒流量を調整する冷媒流量調整手段を設けたことを特徴とする冷凍装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、エジェクタおよび第2蒸発器を備えた冷凍装置の効率の向上に関する。

【0002】

【従来の技術】 冷媒圧縮機、冷媒凝縮器、冷媒膨張器であるエジェクタ、第1蒸発器および気液分離器を順次冷媒通路で連結した冷凍サイクルに、第1蒸発器と並列して、一端は絞り装置を介して前記気液分離器に接続し、他端はエジェクタの吸引部に接続して第2蒸発器を設けた冷凍装置が提案されている（たとえば特開平3-5674号公報）。この冷凍装置は、冷房時において第2蒸発器内の冷媒を第1蒸発器内の冷媒より低い圧力で蒸発させることができるために、熱交換器容積が同一の場合、冷凍能力を向上できる利点がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかるに、上記冷凍装置では、エジェクタを通過する冷媒流量を運転条件に応じて調整する思想がなかったため、圧縮機の回転数が大きく変動する自動車用空調装置に用いた場合、エジェクタの機能が圧縮機の能力に追従できず、圧縮機が多量の冷媒を吐出しているにもかかわらず冷凍能力の向上効果が得られなかったり、冷凍能力が過剰な運転条件では圧縮機の駆動動力が無駄となり、燃費が増大するなどの欠点があった。この発明の目的は、エジェクタを通過する冷媒流量を調整可能とすることにより高速運転時の冷凍能力を増大させるか、または、高速運転時に余裕のある冷凍能力を適性化し、圧縮機の駆動に必要な動力を低減させて燃費を向上できる冷凍装置の提供にある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 この発明の冷凍装置は、冷媒圧縮機、冷媒凝縮器、エジェクタ、第1蒸発器および気液分離器を冷媒流路で連結してなる冷凍サイクルに、一端が前記気液分離器に連結され、他端が前記エジェクタの吸引部に連結された第2蒸発器を付設してなる冷凍装置において、冷凍装置の運転条件に応じて前記エジェクタのノズルを通過する冷媒流量を調整する冷媒流量調整手段を設けたことを特徴とする。

【0005】

【作用および発明の効果】 この発明では、冷凍装置の運転条件に応じてエジェクタを通過する冷媒流量を適性に

調整できる。すなわち、圧縮機の冷媒吐出量が多いときは多量の冷媒がエジェクタを通過でき、これにより第1蒸発器および第2蒸発器に多量の冷媒が流れて冷凍能力は増大する。また、冷凍装置の冷凍能力が必要な冷凍能力より大きいときは、エジェクタの開度を通常より大きくして冷媒の凝縮圧力を下げるなどして、圧縮機の駆動に必要な動力を低減させ、燃費を低減できる。

【0006】

【実施例】 この発明を図に示す実施例とともに説明する。図1は自動車用冷房装置に適用されたこの発明の冷凍装置を示し、エンジンにより駆動される冷媒圧縮機1、冷媒凝縮器2、冷媒の膨張機構であるエジェクタ3、第1蒸発器4、および気液分離器5を順次冷媒流路10で連結した冷凍サイクル100に、一端が絞り装置6を介して前記気液分離器5に連結され、他端が前記エジェクタ3の吸引部に連結された第2蒸発器7を付設してなる。

【0007】 エジェクタ3は、図2に示す如く、上流側（凝縮器2側）の入口管31に連結したノズル32と、該ノズル32の下流に位置し、吐出管33に連結した混合管34と、ノズル32の吹出口を囲む吸引口35を有し、前記第2蒸発器7に連結した外筒状吸引部36とを備えるとともに、冷媒通過流量を調節する冷媒流量調整手段8が組み込まれている。冷媒流量調整手段8は、入口管31内に設けられた受圧板81、該受圧板81に連結棒82を介して連結されるとともにノズル32の軸芯に配されたニードル弁83、この連結体をエジェクタ3の軸芯に軸方向の変位自在に保持する保持手段84、前記連結体を上流方向に付勢するスプリング85からなる。

【0008】 第2蒸発器7には、冷凍装置の運転中は、エジェクタ3で生じる吸引力により、気液分離器5で分離された液相冷媒が、絞り装置（キャビラリチューブ）6で減圧されて供給される。この冷媒は空気などを冷却して蒸発し、エジェクタ3に吸い込まれる。これにより、第1蒸発器4より低温の第2蒸発器7を実現できるとともに、圧縮機1の吸込冷媒の圧力を第1蒸発器4内の冷媒圧力とできるため、吸込冷媒の密度が大きくなり高効率な運転が可能となる。

【0009】 この発明の要旨である冷媒流量調整手段8はつきのように作動する。スプリング85の圧縮量は凝縮器2の凝縮圧力との釣合により決定される。すなわち、圧縮機1が高回転域の場合、凝縮圧力が高くなるため、スプリング85が収縮し、ニードル弁83が図示右方に変位し、円環状のノズル口30の断面積が拡大してノズル32の開度が増大する。スプリング85のバネ荷重を適当に設定することにより、圧縮機回転数ないし圧縮機の冷媒吐出量の増大に応じてエジェクタ3を通過する冷媒流量を増加させることができるため、高速運転時の冷凍装置の冷凍能力も増加できる。逆に圧縮機1が低

回転域の場合、ニードル弁 8 3 が図示左方に変位し、ノズル 3 2 の開度が低減する。これにより冷媒流量が低減して冷凍能力は低下する。

【0010】これに対し、冷媒流量調整手段 8 を備えない従来の固定絞り型エジェクタでは、通過できる冷媒流量を圧縮機回転数の変動に対応して適性に増減させることは困難であるため、冷凍装置の冷凍能力を増減範囲は極めて限られる。なお、この実施例の如くノズル 3 2 の開度の調整をニードル弁 8 3 で行うことにより、ノズル 3 2 の開度が増減するにつれて円環状のノズル口 3 0 の面積も増減する。このため、エジェクタ 3 のノズル 3 2 を通過する冷媒の流速は確保でき、エジェクタ 3 による第 2 蒸発器 7 の冷媒の吸引力は冷媒流量の変動にかかわらず必要レベルに維持できる利点がある。

【0011】この冷凍装置の作動を図 3 に示すモリエル線図とともに説明する。圧縮機 1 から吐出された冷媒は、b 点の圧力・エンタルピ状態で凝縮器 2 に入り、凝縮して過冷却の冷媒 c に変化し、つぎにエジェクタ 3 を通過する際に減圧・膨張される。エジェクタのノズル 3 2 を冷媒が通過する際、吸引口 3 5 から吸引部 3 6 内の冷媒を吸出し、混合管 3 4 で第 2 蒸発器 7 を通過した冷媒 d 1 の状態の冷媒と混合して昇圧し状態 d (圧力 P s) の冷媒となる。冷媒 d は、第 1 蒸発器 4 に入り、空気などを冷却して一部が蒸発し e に示す状態となり、気液分離器 5 で f の液相冷媒と a の気相冷媒とに分離される。気相冷媒は圧縮機 1 へ吸い込まれ、液相冷媒は絞り装置 6 で減圧され状態 g となって第 2 蒸発器 7 に流入する。この冷媒 g は第 2 蒸発器 7 で蒸発して気相冷媒 d 1 (圧力 P s 1) となり、前記エジェクタ 3 の吸引部 3 6 に供給される。

【0012】図 4 に示す如く、従来の固定絞り型エジェクタを用いた冷凍装置に比較し、この発明の冷媒流量調整手段 8 付きエジェクタ 3 を用いた冷凍装置では、圧縮機回転数 2000 rpmにおいて、約 20% の冷房能力の向上が可能となり、回転数が上がるほど冷凍能力が増大できる。

【0013】図 5 は第 2 実施例を示す。一般に自動車の空調装置では、冷凍装置の圧縮機がエンジンにより駆動されるため、エンジンが高速運転され圧縮機 1 が高回転域の場合は冷凍能力が過剰となっている。よって、冷凍能力を適性にし、圧縮機の駆動に必要な動力を低減させ、燃費を向上させることが望まれている。この実施例では、冷媒流量調整手段 8 に圧縮機の高回転域においてエジェクタ 3 にノズル 3 2 の開度を増大させるノズル開度制御機構 8 0 を付設している。

【0014】ノズル開度制御機構 8 0 は、エジェクタ 3 にニードル弁 8 3 を駆動するソレノイド 8 6 を有し、圧縮機回転数にほぼ対応している車速を車速センサ 8 7 で検出し、遅延回路 8 8 を介してソレノイド 8 6 を付勢する駆動回路 8 9 を作動させる。これにより車両の高速運

転時 (圧縮機の高回転域) に、ノズル 3 2 の開度を通常より大きく (全開) し、図 6 に示す如く、冷媒の凝縮圧力を下げる。これにより圧縮機 1 に吸い込まれる冷媒の圧力を低くして圧縮機 1 を駆動するのに必要な動力を低減させる。この場合、図 7 のグラフに示す如く 2000 rpm 以上の圧縮機回転数域において、ノズル 3 2 の開度を全開としたときの圧縮機動力の低減状態を示す。

【0015】高速運転時において、通常のノズル 3 2 の開度よりも大にすることで凝縮圧力が低下し、冷媒の状態は図 8 のモリエル線図の b、c、d が b1、b2、b 3 に移動する。ここで圧縮機 1 で消費される動力は図 8 のしから L 1 に低減する。つまり凝縮圧力 P d が P d 1 に低下することにより、(L - L 1) 分の省動力ができる。圧縮機 1 の回転数が高い運転条件では、冷房能力の余裕があるため、ノズル 3 2 の開度を通常より大に制御することで、凝縮圧力を低下させ、圧縮機 1 の消費動力を 10% 以上低減させることができる。

【0016】冷凍能力を適性に調節するため、高速回転時において圧縮機の駆動動力を低減させる第 3 実施例を図 9 に示す。この実施例では、圧縮機 1 の冷媒吐出圧を調整する圧力調整弁 1 1 を圧縮機 1 の吐出側に設け、吐出圧力が高くなった場合、一部の冷媒をエジェクタ 3 の入口側にバイパスする。この結果、冷媒凝縮圧力が低下するので、圧縮機 1 を駆動するのに必要な動力が低下する。

【0017】図 10 は、第 4 実施例を示す。この実施例ではエジェクタ 3 を通過する冷媒流量を調節する冷媒流量調整手段 9 を、エジェクタ 3 の上流に設けたブリードポート 9 1 突き電磁弁 9 2 およびその制御装置 9 3 で行っている。この制御装置 9 3 には、前記第 2 実施例におけるソレノイドの制御と同一の制御装置が利用でき、高回転数域においては電磁弁はオンして弁口を開き、エジェクタを通過する冷媒流量を増大させる。なお、通常の電磁弁をエジェクタ 3 の上流に設け、そのオン・オフ制御 (デューティ制御) によりエジェクタを通過する冷媒流量を増大させててもよい。

【0018】図 11 は、第 5 実施例を示す。この実施例では冷媒流量調整手段 9 0 をエジェクタ 3 の上流に設けたキャピラリーチューブ 9 4 により行っている。この実施例では、エジェクタ 3 を通過する冷媒流量の調整範囲は限定されるが、極めて低コストに構成できる利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図 1】この発明の第 1 実施例にかかる冷凍装置の回路図である。

【図 2】エジェクタの概略断面図である。

【図 3】この発明の冷凍装置の作動説明のためのモリエル線図である。

【図 4】圧縮機の回転数と冷房能力の関係を示すグラフである。

【図5】この発明の第2実施例にかかるエジェクタ部分の概略断面図である。

【図6】ノズル開度と冷媒凝縮圧力の関係を示すグラフである。

【図 7】圧縮機の回転数と駆動に必要な動力の関係を示すグラフである。

【図8】第2実施例の作動説明のためのモリエル線図である。

【図9】この発明の第3実施例にかかる冷凍装置の回路図である。

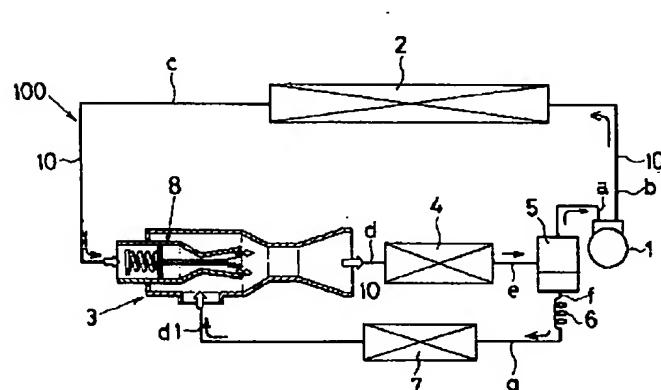
【図10】この発明の第4実施例にかかるエジェクタ部分の概略図である。

【図11】この発明の第5実施例にかかるエジェクタ部分の概略図である。

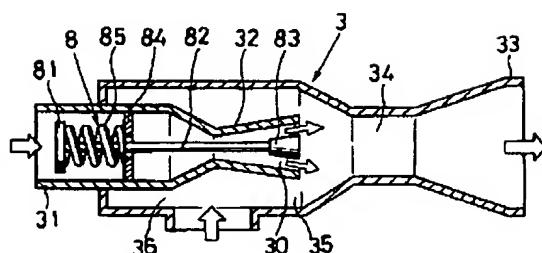
【符号の説明】

- 1 圧縮機
- 2 凝縮器
- 3 エジェクタ
- 4 第1蒸発器
- 5 気液分離器
- 6 紋り装置
- 7 第2蒸発器
- 8、9、90 冷媒流量調整手段
- 10 10 冷媒流路
- 32 ノズル
- 36 吸引部
- 100 冷凍サイクル

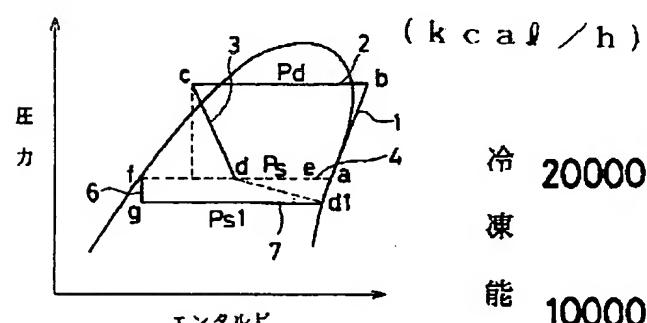
[图 11]



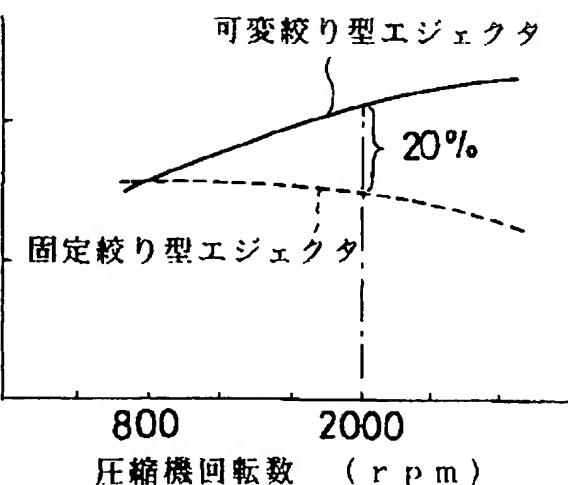
【圖 2】



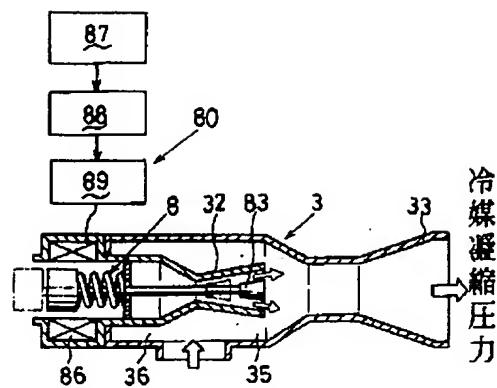
[図3]



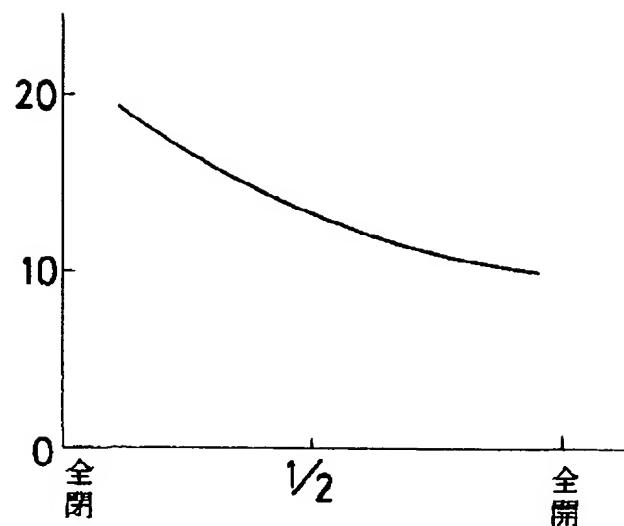
[図4]



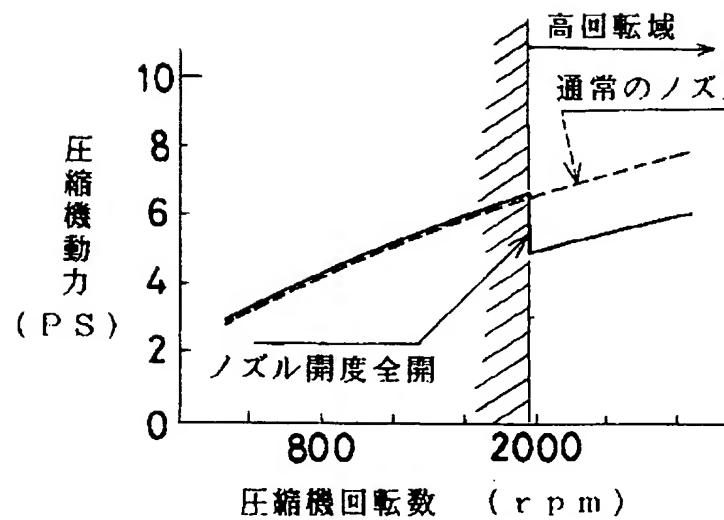
【図5】



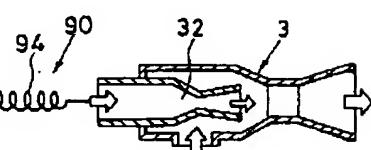
【図6】



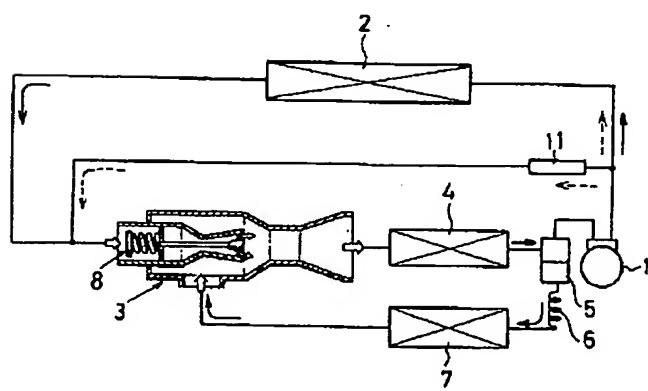
【図7】



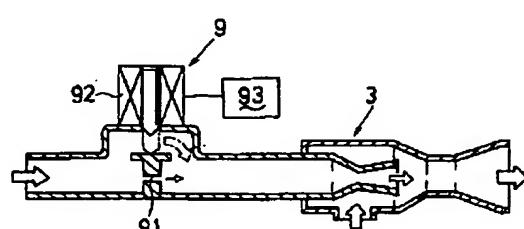
【図11】



【図9】



【図10】



【図 8】

